

国際的な会計人材の育成に関する取組み

公益財団法人財務会計基準機構

2016年7月22日

(本資料中の意見に係る部分は、発表者の個人的見解であり、公益財団法人財務会計基準機構の公式見解ではありません。)

(1) IFRSに関して国際的な場で意見発信できる人材のプールの構築

- IFRSに関して国際的な場で意見発信できる人材について、広く会計に関わる者が人材の選任、交流等に活用できるよう、日本再興戦略2016を踏まえ、当財団において、今後、人材のプールを構築し、管理していく予定である。
- 人材のプールを構築する上では、経団連、日本公認会計士協会、アナリスト協会、企業会計基準委員会、金融庁等の協力を得て、会計人材の育成に関する会議体を創設する。
- 各団体から、対象となる人材の了解を得た上で、人材のリストの提供を受け、人材のプールを構築・管理し、定期的に更新していくことを想定している。
- 対象となる人材については、新たに設置する会議体で検討する予定である。

(2) 会計人材開発支援プログラム

- 当財団は、中長期的な国際的な会計人材の発掘・育成を図るため、2012年より会計人材開発支援プログラムを開始し、これまで以下のとおり、実施している。

- 第1期 2012年1月～2013年12月 作成者、利用者、監査人計34名
- 第2期 2014年5月～2015年12月 作成者、利用者、監査人計22名

- 現在、2016年9月の開講を目指して第3期会計人材開発支援プログラムを構築中である。以下は、現時点で検討している概要である。

目的：IASB等の組織の活動に直接参加し、意見発信及び議論を行うことができる人材を育成し、人材のプールを形成する。

受講者数：15名程度

プログラム期間：1年

プログラムの内容：会計基準に関する講義、国内外のIFRS関係者との意見交換等

